

劔岳北方稜線 山行報告書

【山 域】北アルプス・劔岳

【場 所】馬場島-劔岳-池ノ平小屋-内蔵助平-黒部ダム

【日程】2018年8月17(金) - 8月19(日)

【メンバー】CL: 田中、SL: 澤田(淳)・佐藤、会計: 上荒磯、室(達): 記録

【行程】

8/17 5:20 馬場島→早月小屋 11:25

8/18 5:10 早月小屋→9:00 劔岳山頂(9:30 出発)→12:00 池ノ谷乗越→13:20 三ノ窓→13:50 発射台
→15:50 小窓雪渓→17:20 池ノ平小屋

8/19 4:30 池ノ平小屋→6:50 二股吊橋→10:50 内蔵助平分岐→13:10 黒部川出合→15:00 黒部ダム



8/17

8/16 夜に千葉市役所に集い、車で馬場島へと向かう。馬場島に着いたのは深夜3時頃。仮眠後に準備を整え、黎明の曇り空のもと出発する。始めは歩きやすい樹林帯の登山道。雲の切れ間から日が現れると思いきや、また霧に包まれることを繰り返す。標高200m刻みで標識があり、じわじわと高度が上がっていくことが実感される。

早月小屋の手前に小さな池があり、十何匹ものオタマジャクシが池の底にじっとへばりついている(右下写真)。ところが尻尾がどうも見慣れない形をしており、サンショウウオの幼生ではないかとだんだん思えてくる。自宅に帰って調べてみるが、けっきょくよくわからなかった。



ゆっくりめに歩き、初日のテン場である早月小屋に着いたのはお昼前。この時間帯になるとすっかり晴れて、強い日差しが気持ち良い。テン場からは北方稜線の切り立った稜線がかなたに望まれる。テント設営後は特にやることもないので、ビール飲んだり、お昼寝したり。夕飯をテントの外で取った後は早めに就寝した。

8/18

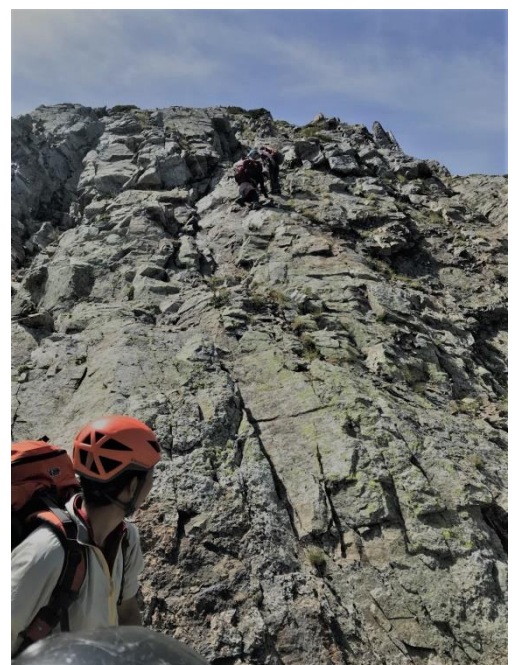
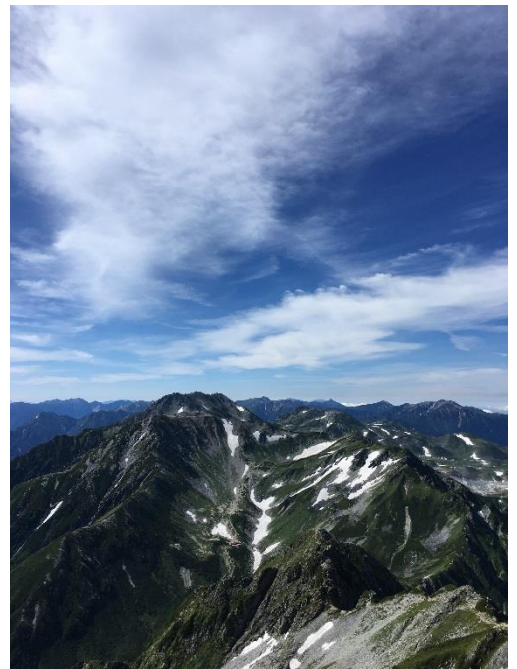
暁に赤く染まった雲が北方稜線の山容を黒くかたどる時刻に出発。樹林帯はまだ続く。キイチゴが登山道脇のところどころに群生しており、色つきの良さそうなものをむしって食べる。しかしまだ熟していないのか、ほろ苦くあまり甘くないものが多い。

左手には毛勝三山の雄渾な山容が展開しており、そのスケールに目をみはる。さらに標高を上げていくと、不意に森林限界に到達し、それと同時に右手後方に奥大日岳、大日岳、立山三山が次第に姿を現すようになる（右上写真）。後ろを振り向けばはるかかなたに能登半島と日本海が見渡すことができ、四方の風景にまったく飽きることがない。

劔岳山頂に近づくにつれ、岩場が多くなってくるが、鎖が設置してあるため特に危険箇所はない。稜線に出てから劔岳山頂まではすぐそこで、山頂は多くの登山者でにぎわっていた。源次郎尾根、八ツ峰が東方からせり上がっており、岩峰の連なりは霜柱のようにするどく険しい。

北方稜線に入った途端に岩がガレガレとなり、浮石が多くなる。落石を起こさないように歩くのがたいへん。長次郎のコルを越えて稜線上を歩く。途中で小さな双耳峰のあいだを縫うように進んだ後は、右方の急峻な岸壁を三点支持でそろりそろりと降りて（右下写真）、池ノ谷乗越に到着。このときすでに正午。八ツ峰やチンネを登ってきた他パーティとも合流するところだ。ここから降り始める池ノ谷ガリーは、少しでも油断すると岩雪崩を起こしそうなすさまじいガレ場（次ページ左上写真）。細心の注意を払って忍び足で歩いて、岩がガラガラと崩れてしまう。この世の理不尽を凝縮させたようなガリーをなんとか降り終え、昼過ぎに三の窓に達すると、見上げればそびえ立つような発射台が待ち受ける。ここで田中さんはロープとカムを取り出して万が一に備えるが、発射台はなんてことはない急登で、ロープに頼ることなしに、なんなく登り終えてしまった（次ページ中段写真）。

発射台を抜けると、150mほど東側を降り、稜線をトラバースする。ここはどこからどれくらい下ればよいのかあいまいで、ルートファインディングに少し時間を要した。黒い岩を起点に登り返すと、細長い雪渓を挟んで尾根上に乗り上げるトレースが見える。田中さんがピッケルで一步ずつ雪を削って作った踏み場を歩いて、雪渓をトラバース。バランスを崩すと雪渓のはるか下まで滑ってしまうので、ひやひやさせられた。





ここから徐々に高度を下げて小窓に着く。池ノ平山の北峰と南峰が真正面に控えており、右方には小窓雪渓が絨毯のように下まで続いている。疲労の溜まった足に鞭打って小窓雪渓をずっとくたいていくと、左手の岩場に白のペンキマークが不意に見えてくる。ここから雪渓をあがって樹林帯の中の登山道をしばらく行き、17時過ぎにようやく池ノ平小屋に到着。死にそうになりながらテントとツェルトを設営し、すぐに食事をしてすぐに就寝。

8/19

翌朝は3:00に起床し、暁闇をついて出発。ほの暗い登山道をヘッドライトで照らしつつ歩き始める。次第に空が白んでいき、ふと後ろを振り向くと、それまで黒い影のように夜空に潜んでいたと思われた裏剣は、モルゲンロートによってその山の端を明るい橙色に染め上げていた(右下写真)。ほんの一瞬のことで、次に振り向いたときには、岩峰を彩る赤銅の化粧は消え去っていた。



低木の生い茂る登山道を進むと沢沿いの歩きやすい道になる。刃沢を越える橋を渡り、ハシゴ谷乗越へと向かう登り道に入る。前日の疲れが足に残っているため、急登がなかなかきつい。ピークを越えた下り道も岩がゴロゴロして歩きづらく、体力を消耗させる。ようやく内蔵助平分岐に着いたのは11時前だが、30分ごとに足を休めないと足の裏が痛んで仕方がなくなってくる。

力を振り絞るように歩き続け、13時に黒部川出合に着く。両壁を緑に繁らせた深い谷の底に、淡い碧色をたたえた水の流れが巨岩のあいだを滑り抜けるようにほとぼしっており、谷を突き抜けるすずやかな風が心地よい。だが、黒部川と合流すればすぐそこに黒部ダムがあると思いをしていたため、谷沿いをさらに2時間歩くことはまったくの苦行だった。足の裏の痛みを抱えつつ苦難を耐え忍ぶかのように歩き続け、観光客がごった返す黒部ダムにたどり着いたのは15時。扇沢へと向かうトロリーバスの中で、田中さんから破碎帯についてのレクチャーを受ける。破碎帯をなんかすごく硬い岩盤のことだと勘違いしていたので、勉強になった。

念願の北方稜線を歩くことができたいへんうれしい。CL, SLを始めとして、同行者の皆さんに感謝します。どうもありがとうございました。

